

# はまぼうふう vol.1 2000.6.1.

石狩浜海浜植物保護センター通信

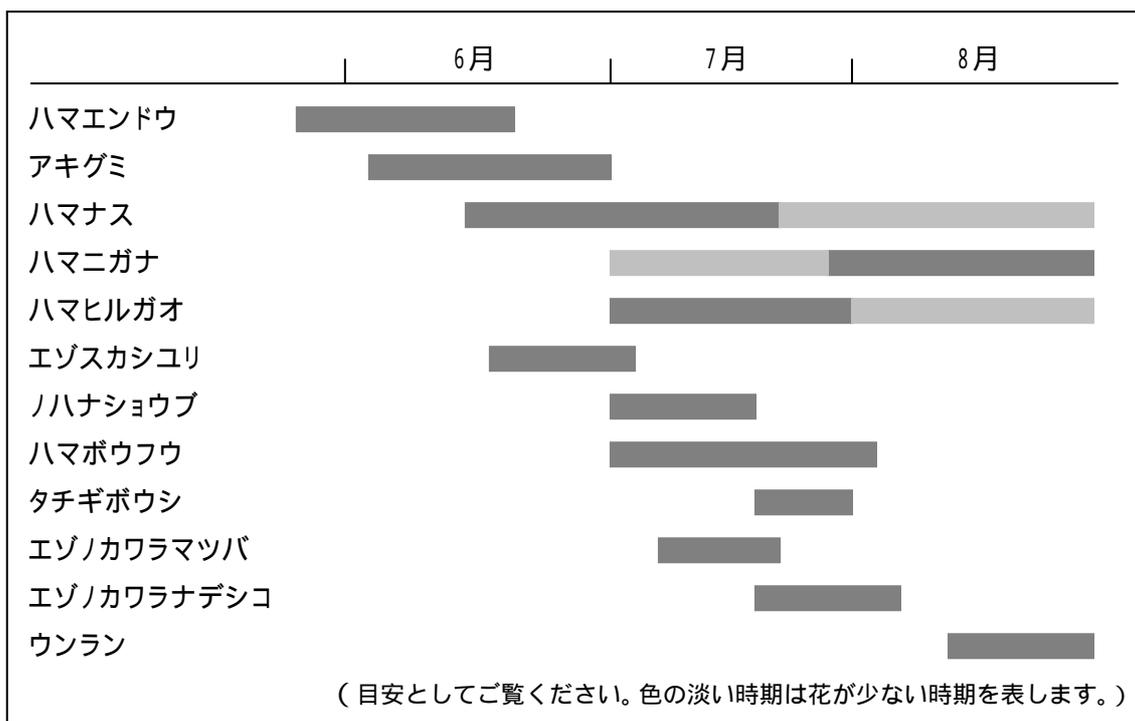
防風林でカタクリやエゾエンゴサクの花が終わる頃、ようやく石狩浜に春が訪れます。5月10日、ようやくイソスミレが紫色の花をみせてくれました。ハマハタザオはこの日から少しずつ白い花を開き始め、5月下旬には砂丘に白の絵の具をポンポンと落としたような彩りをみせていました。風の弱い暖かな日、ハマハタザオの花にはハナバチやハナアブが訪れ、背中に光沢をもった甲虫の仲間は、時を忘れるように花の中にもぐりこんでいました。砂地にあった穴から、アリたちはせっせと出入りしており、時にはハマハタザオの花にももぐりこんでいました。



ハマハタザオの花に訪れた甲虫

これからは、次から次へと花々が海岸砂丘を飾っていきます。虫たちも、浜の強風に負けじと盛んに花々を訪れることでしょう。

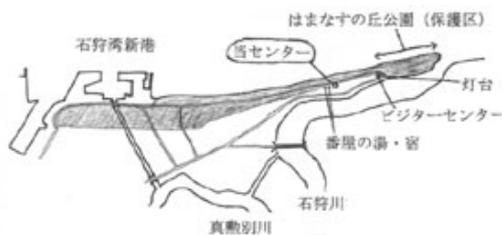
## 石狩浜6～8月花暦



## 石狩浜海浜植物保護センター開設にあたって

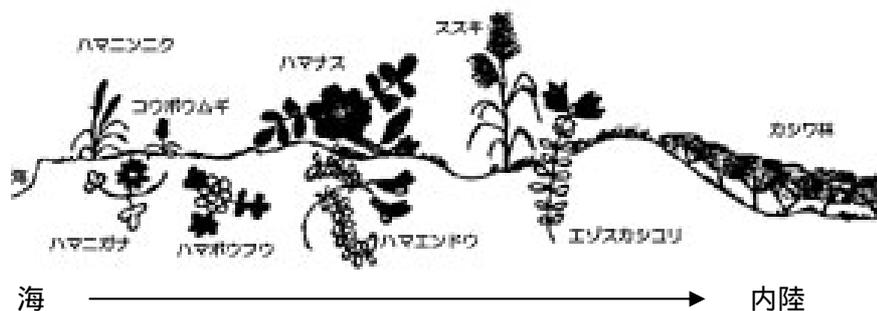
### 石狩海岸の自然

石狩海岸は、全国的に見ても豊かな海浜の自然が残る地域です。海岸砂丘、海岸草原、防風林として残されたカシワの純林と、自然のままの植生が全長約8km幅約800mにわたって続きます。海岸砂丘には、ハマニンニクをはじめハマニガナ、ハマボウフウ、ハマナスといった動く砂地でも根をおろすことができる植物が生育しています。砂丘より内陸の砂地が安定してくる地域には、ハマナスに混ざってススキやエゾカワラナデシコ、ヒメイズイ、エゾスカシユリなど、やや背の高い多数の草本種が草原の景観をつくりだしています。さらに内陸へ入ると、カシワ林が現れます。海からの強風にさらされ、高くなれないカシワの木は、私たちの手の届く高さにたくさんのドングリを実らせませす。この海岸から内陸へ向けての植生の変化が自然のままに残る地域は、現在では非常に貴重なものになっています。



石狩浜概略図

石狩浜砂丘断面図



### 石狩海岸の自然の現状

豊かな自然の残る石狩浜は、レジャーや自然散策の場としてたくさんの人に利用され、親しまれています。一方、四輪駆動車による砂丘走行は、海浜植物を踏みつけ、植生のなくなった砂丘が強風によって次第に削り取られていくという事態を生じさせています。また、美しい花を咲かせる海浜植物の盗掘や山菜としての乱採があとを絶たず、保護区以外ではほとんど姿がみられなくなった植物もあります。さらに、ススキやカモガヤ(牧草)など帰化植物が年々広がっているとの声も大きく、これらによって海浜植物の生育が妨げられることも心配されています。

### 石狩浜海浜植物保護センターとは

このような状況の中、石狩浜の自然の保護、回復をめざす活動の拠点として、当センターは2000年4月29日にオープンしました。

センターでは、石狩浜の自然の情報を収集し、みなさんに提供するとともに、浜の保全に向けての調査研究に取り組んでいます。また、市民のみなさんが浜の自然により親しんでいただけるよう、自然観察会等を行っています。

石狩浜の自然を市民のみなさんと協働して保護保全していくことを、センターは目指しています。

## 4～5月の活動から

4月28日、当センターの開館式で、石狩小学校の5、6年生と来賓の方々によって、海浜植物のタネが見本園にまかれました。およそ一ヶ月たつ5月20日、ハマヒルガオとハマエンドウの芽は点々と出てきています。一方、ハマボウフウの芽は出てくる気配がありません。

さてここで、タネが発芽する条件についてわかってきていることをお話します。

海浜植物が芽を出すには？

### 1. ハマエンドウ

このタネは、硬い種皮をまとっています。タネが発芽するには、この硬い皮に人工的に傷（穴や亀裂）をつけてやると、傷をつけなかったものより発芽する割合が高くなることがわかっています。この傷口から水分を吸収できるようになるからでしょう。

また野外では、タネにゾウムシの幼虫が入ることが多く、この虫が入った穴が見られるタネの多くは発芽しません。今回は、虫の入っていないタネを選び、人工的に傷つけたものをまきました。

野外では、どのようにして種皮に傷がつくのでしょうか。豆状の丸いタネは地上に落ちると、厳しい風に吹かれて砂の中を転がり、砂の上の激しい気温の変化にさらされ、種皮

がボロボロになっていくのでしょうか？種皮がボロボロになるまで何年も砂の中で待つのでしょうか。

### 2. ハマヒルガオ

このタネも、ハマエンドウと同様、人工的に種皮に傷をつけてやることで発芽しやすくなることがわかっています。

（今回は、人工的に傷をつけたタネをまきました。）

### 3. ハマボウフウ

このタネは、2～3ヶ月間、寒さと湿り気にさらされると発芽しやすくなることがわかっています。つまり、冬の野外の気候にさらされることが発芽に必要なのです。

今回まいたハマボウフウのタネは、採種後室内で保管されていたため、冬の寒さと湿り気を経験していなかったのです。次の冬を野外で経験し、来春たくさんの芽をだすことと思われれます。

引用

近藤哲也 山口真有美 1999 ランドスケープ研究 62:507-510

白井菊子 増田清 田村春人 後藤真咲 1999 北海道大学農学部研究報告 31:35-40

### 石狩海浜植物保護センターの利用について

展示場 浜の自然情報を提供します。また、あらかじめお申し出いただければ、スクリーン等を使って講義などを行うことができます。

見本園 石狩浜の海浜植物が植わります。お申し出いただければ、種子をまいたり苗を植えることもできます。

開館時間 am9:00～pm5:00 休館日 毎週火曜日（ただし祝日のときは翌日）

開館期間 4月29日から11月3日

5月1日、東京の会社に勤めながら、故郷宮城県名取市のハマボウフウの保護活動に取り組む大橋信彦さんが、石狩浜の海浜植物の視察にきました。宮城県名取市の閑上（えりあげ）海岸では、ハマボウフウは山菜や製菓の原料として乱採され、また、海岸を走行する車の踏みつけによってほぼ消失しました。現在、わずかに残ったハマボウフウ数株が発見され、地元の専門家を交えて保護増殖活動に取り組んでいるそうです。

大橋さんは、「昔は浜のあちこちに（ハマボウフウは）ありました。真夏に、熱い砂の上を歩いて海に向かう途中、ハマボウフウのひんやりとした葉の上で足を冷やしたもので

す。」と語って下さいました。

石狩浜の保護区には、ハマボウフウの大群落が残ります。全国各地でハマボウフウが減少している中、この大群落は、石狩浜の貴重な財産なのだということを実感しました。



野外でのハマボウフウの発芽の様子。

倒れた花序についていたタネが一斉に発芽。

---

## 6～7月案内

### 石狩浜初夏の自然観察会

ハマナスの咲く初夏の浜の自然をご案内します。

6月24日（第4土曜日）

10時から正午まで（小雨決行）

参加費 無料

集合場所

石狩浜海浜植物保護センター

### 石狩浜こども自然教室

海水浴の前に、石狩浜の自然に目を向けてみよう。あつい砂の上にも生き物はいるよ。

7月30日（日曜日）10時から正午まで

参加費（保険代等）大人200円 子供100円

定員40名

申込先 石狩浜海浜植物保護センター

定員になり次第、締め切らせていただきます。

集合場所等については、お申し込みの際にお知らせします。

### 石狩浜夏の自然観察会

花盛りのハマボウフウの群落をはじめ、夏の石狩浜の自然を散策しませんか。

7月23日（日曜日）10時から正午まで（小雨決行） 参加費 無料

集合場所 ビジターセンター

---

参加申込・お問合せ・通信に関するご意見については、下記の連絡先までお願いします。

石狩浜海浜植物保護センター ad.061-3292 石狩市弁天町 48 番 1

tel.0133-60-6107 fax.0133-60-6146 email:hamanasu@guitar.ocn.ne.jp